

恩師 大西近江先生！「ラダックで見付けました」

江戸蕎麦研究会（旧寺方蕎麦研究会） 小林照男

平成 27 年（2015 年）3 月、第 2 回ラダック地方蕎麦探索の結果を持って、大西近江先生（京都大学名誉教授）のお宅を訪問しました。先生のお宅は琵琶湖から流れ出た瀬田川に掛かる歴史的にも有名な唐橋に近い閑静な住宅地で、瀬田川沿いには紫式部が源氏物語を起筆した石山寺があります。

訪問の目的は ①ラダック地方に於ける蕎麦事情（蕎麦種・栽培・他）のご報告。

②ヒマラヤ山系における栽培蕎麦と野生祖先種の分布についてでした。

大西近江先生に初めてお会いしたのは筑波大学農林研究センター主催の「そば研究会」でした。その時の講演「栽培そばは中国三江地域で起源した-そば野生祖先種の探索」は私の蕎麦を日本から中国、そして広く世界に引き込むものでした。

その後、江戸ソバリエ・ルシック講座や他の講演会などで同様の講演をお聞きしましたが、お陰で先生とお話をする機会を得ることが出来たことは本当に幸いでした。

私は平成 27 年（2015 年）5 月、第 3 回ラダック地方蕎麦探索の準備で、3 月に続いて大西近江先生のお宅を訪問しました。目的は中国・雲南省でダッタンソバ野生種が自生している状況写真と、その数種の種子（実物）を頂く事でした。

前回、訪問した時に「ラダック（インダス川沿い）にはダッタンソバ野生祖先種があるはずですが＝大西近江先生は蕎麦の野生祖先種の分布状況を確認するため各国を訪れていますが、その当時北インド・ラダック地方は外国人の入域を認めていなかったためラダック地方だけは確認できなかった＝」とのお話を聞き、是非にも私達で見付けたいとの思いから、ダッタンソバ野生祖先種を見た事がない私は「どの様な所に・どの様な状況で生育しているの？」を知る必要がありました。

私達の北インド・ラダック訪問の当初の目的は、厳しい自然環境下に於ける蕎麦の栽培と蕎麦食事情の探索でしたが「ダッタンソバ野生祖先種」の発見（確認）は、私達ラダック地方蕎麦探索の大きな目的となり、結果的に計 5 回もの訪問になりました。

第 3 回ラダック地方蕎麦探索はインダス川沿いを下ってパキスタン国境近くに行くルートでしたが「それらしい所」で車を降りて探した結果、幸いにもインダス川沿いの「バスゴー村」や「カルギル」(ラダック第 2 の都市)や「サンク村」で「ダッタンソバ野生祖先種」を見付けることが出来ました。

ダッタンソバ野生祖先種は 19 世紀末にロシア人が中国甘肅省で発見している事から、後日談で大西近江先生は笑いながら「小林さんの発見が 130 年前であれば歴史の残る大発見」と冗談を言って労ってくれましたが、大西近江先生が確認できなかった地域（ラダック）でのお手伝いできたことは私の誇りでもあり、私達の蕎麦への思いが一層強いものになったと思っています。

令和元年（2019 年）9 月に開催された第 14 回世界そばシンポジウムにご夫妻で出席された大西近江先生は各国から出席している研究者から敬意を受けられ、改めて大西近江先生の偉大さを知った次第です。

ラダック地方で発見した「ダットンソバ野生祖先種」



(

ダットンソバ野生祖先種 (大西近江先生蔵・稲澤敏行氏撮影)



以上